

善光寺大本願にまつわる善光寺地震(1847年)のモニュメント

清水 美帆(名古屋大学減災連携研究センター)

§ 1. はじめに

弘化四年三月二十四日(1847年5月8日)に発生した善光寺地震の慰霊碑は、長野市の善光寺境内では民間人が願主の「地震横死塚」と、二本坊の1つである大勸進貫主と寺内関係者による「一字一石供養塔」が知られている。筆者は、大阪市内で善光寺地震の追善碑を確認した。この石碑はもう1つの本坊である大本願上人が関係しており、存在については2点の資料に確認したが、いずれも筆者が確認した事実と内容が異なるため報告する。

§ 2. 追善碑(六字名号碑)の概要

碑は大阪市西区の蓮池山智善院和光寺境内「阿弥陀池」ほりにある。善光寺本尊が出現したという信仰があり、元禄 11(1698)年堀江新地開削の際にその故地であることから 113 世大本願上人が幕府へ申し入れ、大本願へ永代寺地として下賜された。

[正面(南)]

(右側) 信州善光寺百拾七世大本願上人
(中央) 南無阿弥陀佛 覺眷(花押)
(左側) 為 信州大地震横死亡霊 追善
大海水災一切溺死群霊

[裏側(北)]

(中央) 嘉永六癸丑歳四月建之

[台座]

(正面(南)) 萬人講
(左側(西)) 堂嶋/世話方
(裏側(北)) 北新地/講中
江戸/惣講中/青山
(右側(東)) 和光寺/惣講



図 1 和光寺の追善碑と台座(上から西/北/東)

§ 3. 既存資料の記載

坂井¹⁾は「一八五一(嘉永)四辛亥 此頃百十七世大本願上人大地震追善碑(和光寺碑銘)」、小林²⁾は「一八五一 嘉永四年 ○大本願智昭が大坂和光寺に大地震追善碑を建てる」と記している。いずれも「嘉永四建之」と読み誤られた可能性がある。「○」は凡例に「日付を特定できない事項」とある。智昭は 116 世大本願上人で、天保七(1836)年十一月に遷化され翌年公にされており、同じ年表の天保八年の項に「6・10 大本願上人没」「7 月誓円が大本願住職となる(墓碑銘)」とあるが、誤記の理由は不明である。

§ 4. 考察

善光寺地震の際、虚空蔵山(岩倉山)が大規模に崩壊し犀川を堰き止めた。山間の数ヶ村を水没させた河道閉塞は四月十三日に決壊し、下流の千曲川流域は広範囲で浸水した。「大海水災」「溺死」はこれらを包括すると考えられる。追善碑建立の嘉永六(1853)年四月は、この決壊から6年目にあたる。

「萬人講」は、特別な信徒集団に属していない多くの人たちが関係したと考えられる。

江戸中期頃から、大本願上人は、住職を兼務する江戸青山の善光寺に常住する習わしで、117 世上人も善光寺地震当時は江戸に滞在されていた。鷹司³⁾によると、117 世上人は、嘉永六年二月十三日に江戸を発ち、三月六日から九月十九日まで大坂に滞在、十月七日に江戸に帰着されている。また、三月十日から四月二十九日まで和光寺開帳とある。

以上から、和光寺での追善碑の建立に併せて 117 世大本願上人を迎え、開帳と 7 回忌法要が執行された可能性がある。

§ 5. 参考文献

- 1) 坂井 衡平, 1969, 善光寺史[下], 東京美術, 1118pp.
- 2) 小林 計一郎, 2000, 善光寺史研究, 信濃毎日出版社, 1040pp.
- 3) 鷹司 誓玉, 1979, 誓圓尼公, 大本山善光寺大本願教化部, 32pp.

§ 6. 謝辞

善光寺大本願から史料閲覧のお取り計らいと、貴重な資料のご恵与賜りました。謹んで感謝申し上げます。